

失敗を糧にする

面白い生き方

ドナルド松山

私の好きなアニメに、いつも失敗ばかりする主人公がいた。失敗ばかりするその主人公は人気者で、友達や仲間がいた。なぜ人気者だったのだろうか？　なぜ友達や仲間がそばにいたのだろうか？

子どもの頃は、深く考えることがなかったが、大人になって色々なタスクをこなしているうちに、このことを思い出すことがあった。失敗ばかりしている主人公を私に重ね合わせてみたら、失敗のたびにその主人公が周りの人に助けられているのと同じように、先輩や同僚、後輩は私をサポートしてくれた。

それは仕事だから、会社だから、組織だから、というだけではない。

私がサポートに回ることもある。失敗するやつはチャレンジしている。一生懸命している。失敗してもあきらめずにいる。失敗を無駄にせずにいる。それは仲間もそうだったし、自分も無意識のうちにそうしていた。

失敗は恥ずかしいことだと思っていたが、主人公はそれでも幸せそうに思えた。一生懸命した失敗なら、周りはそのをフォローしてくれる。失敗を繰り返すといつか成功する。チャレンジして失敗することは、チャレンジしないことよりもはるかに価値がある。このアニメをはじめとする、いわゆるドンくさいその主人公は愛されていた。そして誰かを笑顔にしていた。失敗を通じて。それは私が現実世界でも経験しているそれと同じであった。いまだに私は、失敗する怖さからチャレンジしない選択をすることはあるけれど（笑）。

「人生にムダってないもんだよな」「全ての経験が人生の糧となる」（「演劇ユニット・言葉の動物」主宰公演より）

私が演じた役にあった台詞である。芝居はいかにして普段の振舞いと同じようにできるか、というのが演技力の1つだと思っている。台詞の場合、台詞を読むのではなく、いかに自分の言葉として話すことができるか、ということになるだろう。この2つの台詞は、私にとつては実は普段から思っている自分の言葉でもある。

サラリーマン時代には後輩に「雑用1つとつても無駄な仕事ではない」と指導していた。それは自分が経験して得たものであり、すべての出来事は必然であると思っている。だからこの台詞があるシーンだけは、他を犠牲にしても上手くしなければならぬと少し気負った感じにはなつたけれど、芝居に入つてしまうとそんなことすら忘れてしまうぐらゐに役者になりきっている。嘸んだりしてもそれすら芝居にしまっている。それも経験から学んだことである(笑)。

失敗という経験は、きつと無駄ではないはず。本当にそうだろうかと思ひ、自分のこれまでの人生を振り返ると、無駄にしてしまっていることもいくつかある。人生に無駄がないつて嘘だ。でも、もう一度考えてみる。その経験は無駄だった？ その失敗は無駄だった？ すごく長いスパンで見えた場合、あの時の経験が、あの時の失敗が、というのが少なからずあつた。特に私が思っていることは、人の親切を無駄にしてしまうこと。換言すると「人の親切を生かすことができなかった」ことだ。

恩を仇で返すようなこと。そういうことをいっばいやってきた。でも、他責に聞こえるかもしれないが、その時は必要がなかつたり、自分には能力が足りなかつたりして、生かせなかつたことがほとんどである。そのことに当時は気が

付かなかつたり、無理してその親切に応えようとしてしまって、結果無駄になってしまうことがあった。しかし、そういう経験が、後に自分が誰かに親切にする時にもう一步配慮を試みたり、親切にされた時の断り方や、生かすための工夫をしたり……。過去の失敗を単に無駄にするのではなく、少しでも生かす方法を手練りよせることにいかせた。その失敗や経験はやがて、

「他人にとってはすごいことでも、自分にとっては当たり前なことをしただけ」ということになる。

芝居で、千秋楽を無事に終えて、その台本を棚にしまう前に、私はもう一度稽古するようにしている。サッカーでいう、リカバリートレーニングのつもりである。その失敗はこうすれば防げたなあ。この芝居はこうすれば、もっと面白かったなあというものから、あの芝居は手ごたえがあつたなあ。あのクオリティを維持できるようにしよう、というもののまでさまざまである。

「失敗だけではなく、成功したものからも学べることもある」

役者をやるようになってから、それを意識するようになった。でも本当は、システム開発の場面で行き詰まった時に、あの時はどのように乗り切ったか、それはどこがポイントだったかを振り返って、過去の成功例からヒントをもらう。そう自然にやっていたことを、今もやっているだけだった。それをルーティンとしただけである。

やっぱり人生に無駄はないんだ。失敗しても成功してもそこから学べることはいっぱいある。私の人生経験が、他の人の生きるためのヒントになれば、とても嬉しく思う。